2024 年度学習院大学史学会総会

第 40 回学習院大学史学会大会

▸2024 年 6 月 15 日(土)

総会　9：30～10：50　大会 11：00～17：45

＊総会･大会は対面にて開催します（総会は会員のみ）（入場無料、事前申込不要）

総会　　：学習院大学中央教育棟　508 教室

大会報告：学習院大学中央教育棟　501 教室･502 教室

大会講演：学習院大学中央教育棟　401 教室

懇親会　：百周年記念会館

▸研究報告

第１部　11:00～12:00

漢代の人質行為について

徐　知非（学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程）

第２部　13:00～14:00

伝説と史実のあいだ－秦始皇本紀にみる湘山樹木伐採に対する考察－

宋　瑞昇（学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程）

近世後期蝦夷地在地社会におけるアイヌと和人

－西蝦夷地ヨイチ場所「イケシュイ」を事例に－

竹澤　翔（学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程修了）

第３部　14:20～15:20

『詩経』と注釈からみる中国の色彩

荒見　愛（早稲田大学大学院博士後期課程）

明治後期～大正期における国有地・御料地下戻し運動の展開と変容

－請願による民意表出を手がかりとして－

仲田　拓真（学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程修了）

▸講演

15：30～16：30

アウグストゥス時代とは何だったのか

－ローマ前期帝政の始まり？－

島田　誠（学習院大学文学部史学科教授）

16：45～17：45

南都復興にみる鎌倉幕府と朝廷

高橋　典幸（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

主催：学習院大学史学会／共催：学習院大学文学会

お問い合わせ：〒171-8588 東京都豊島区目白 1-5-1 学習院大学文学部史学科研究室内

E-mail:　shigakukaitaikai@yahoo.co.jp　HP:　https://www-cc.gakushuin.ac.jp/~hist-soc/

▸研究報告概要

第１部　11：00 ～ 12：00

漢代の人質行為について

徐　知非　於 501 教室

漢は中国歴史上初めて長期間存在していた統一王朝であり、外交面でも「人質」という行為を利用しながら、侍子制度を成立させた。その漢王朝について、当時の状況も影響し、前漢・後漢では「人質」という行為の方式は大きく異なっていた。本報告は漢代の人質行為を全般的に検討するものである。

第２部　13：00 ～ 14：00

伝説と史実のあいだ－秦始皇本紀にみる湘山樹木伐採に対する考察－

宋　瑞昇　於 501 教室

司馬遷は中国の各地を遊歴し、地方に伝わった説話を『史記』秦始皇本紀に書き入れた。始皇帝巡行中の湘山樹木伐採というものがたりはそれらの説話の中の一つであると想定されていたが、近年公開された嶽麓秦簡『秦律令（貳）』にみえる当該条文によって、樹木伐採行為は伝説であると裏付けられた。しかしながら、伝説であっても、一定の史実にもとづいているはずであり、この伝説の形成過程を考察すると、秦代ではなく、楚漢戦争～漢初にかけてこそ湘山の樹木が伐採されたのではないかと考えられる。

近世後期蝦夷地在地社会におけるアイヌと和人－西蝦夷地ヨイチ場所「イケシュイ」を事例に－

竹澤　翔　於 502 教室

本報告は、第一次蝦夷地幕領期末から松前藩復領期にかけての蝦夷地在地社会におけるアイヌと和人の関係について、主として西蝦夷地ヨイチ場所とその周辺地域において構築されたアイヌ－和人社会に関する実態について、イケシュイ（アイヌ語で逃散を指す）での事例を素材に、文献史学の手法を用いて検討するものである。

第３部　14:10～15:10

『詩経』と注釈からみる中国の色彩

荒見　愛　於 501 教室

中国の古代より、人々はどのような色彩観を持ち、どのように表現していたのだろうか。本報告では、文字の観点から、中国の古代の色彩描写について、中国最古の詩集である『詩経』と後世に付された注・箋・疏・集注の注釈から、時代ごとに検討する。また、「間色表現」を通して色彩の並び順に注目することで、色彩と五行思想との関わりだけではなく、それを後世の注釈者がどのように受け入れたのか、ということについても言及する。

明治後期～大正期の帝国議会における国有地・御料地下戻し運動の展開と変容
－請願による民意表出を手がかりとして－

仲田　拓真　於 502 教室

明治後期～大正期の帝国議会において国有地の下戻ないし下戻申請期限延長はしばしば争点となっていた。申請期限延長法案に一貫して反対する政府に対して、衆議院議員らは大規模な請願運動を行った。この請願運動に至る経緯を軸に、宮中の請願の取り扱いや御料地の下戻しに関する施策と比較し、宮中と府中は次第に相補的に政策決定をしていく（相補的宮府二元体制の構築）過程を明らかにする。